



介護体験を

聞く会



ホームページ
http://www.yanagida-kaigo.co.jp/

会報第206号

平成31年3月15日発行

発行所…(有)明寿会

住所…川崎区中島1-13-3

電話044-233-0061

*3月は30日(土)です

第204回介護

体験を聞く会

「定例会」

平成31年2月23日
(土) 三々五々館で開催

議題

①御家族の努力でデイケアの利用がご本人の身体的、精神的安定に繋がった事例

②デイサービス・デイケア・グループホーム家族相談会

参加者…職員

院長・柳田ケアマネ・柏倉・飯田・田渕・三浦・工藤・吉田・周藤・高橋

(美)・川村

御家族*敬称省略・中島・藤田・野々目・長島・柳

澤・今野・柴山・Kさん

長女

①事例検討

・デイケアやリハビリでの活動において日常生活動作の低下を防ぎ維持していく

・定期的に入浴をすることとご家族の負担を減らす

《既往歴》胆石手術(20年前)

《現病歴》・不安神経症・認知症

《生い立ち》

Kさん、大正12年11

生まれ、95歳

性格…温厚

川崎生まれ。味の素にお

勤めだったご主人と25

歳で結婚。長女、次女を

出産。

40歳頃から食堂で働き

80歳になるまで勤め上

げた。

当時の事を尋ねるとご本

人は「働くのは楽しかつ

た。戻ってまた働きたい。」

と笑顔で話して下さる。

《デイケア利用開始》

平成30年5月16日

週二回から週三回に

《ご自宅での様子》

家では6時半頃に起床し、朝食をしっかりと摂り11時半に昼食、16時に夕食を済ませ17時に就寝

と同じパターンで過ごされていくそうです。日中はテレビを観たり昼寝を

したり、洗濯物を畳んだりと一人で出来ることは

されています。

トイレや入浴など何とか一人で出来ますが手を貸

す事が増えています。

《デイケアでの様子》

初回利用時は午後になると帰宅願望が強く見られました。その後も何度か

「私いつ帰れるの?」と不安そうに訴えることが

ありましたが、日が経つと共に慣れていって下さり現在は全くありません。

親戚のSさんが一緒にご

利用されていたこともあり安心していただようです。

朝の会に参加されている時は耳が聞こえにくい(難聴)ので、他利用者様の動きをみて木魚を叩いたり、リリアンを回して歌を歌ったりしつかりと模倣をされています。

最近朝の会の途中で目を瞑っている時間も増えているように感じます。

創作の時間も必ず参加され、何でも楽しんで取り組まれます。先日は節分飾り作りで鬼の顔を貼り付けていく作業をしましたが、鼻や目を貼る位置を考えてレイアウトして

素敵な鬼を作られていま

した。

耳が聞こえづらい事もありコミュニケーションがうまく取れない事が多々あります。他利用者の方に話しかけられますがなかなか会話の辻褄が合っていないです。ですが、持ち前の明るい笑顔で上手く乗り切っておられます。

《歩行》

小刻みすり足歩行。転倒の危険あるためデイケア内の移動はスタッフと移動。

自宅ではつかまり歩行、ハイハイをしている。

《食事》

デイケアでは主食100g、副食一口大で提供している。主食、副食ともに5分の1、2しか召し上がらない。自宅でも食事は少なく、元々が少食かつ偏食。

《排泄》

来室時はお手洗いに何度かお誘いするが「いいです。」とお断りされる事が殆どで一度行くか行かないかです。

《入浴》

利用当初は入浴にお誘いしても「胸がドキドキしてだめ。」「家で入るか



「いいです。」と拒否が続きました。娘さんの協力もあり今ではすっかり入浴して下さるが、時々胸が苦しい(動悸)と訴え、入りがたがらない事があります。

〈着脱〉

朝は上着衣はスムーズだが下着衣は30分位時間を要す。
デイケアでは、上着衣は自身で行ない下着衣はスタッフがお手伝いしている。

へ娘さんよりへ

家でずっと過ごしていた時は体調不良を訴えていましたが、デイケアに行くことによって皆さんと話をし、体操や季節の物を作り楽しさが増えたことで体調が良くなったようです。いつも入浴させていただき、爪を切ってもらい気持ちよく過ごしています。スタッフの皆様に感謝です。引き続きよろしくお願い致します。

へ今後についてへ

昨年12月に自宅の外階段で転倒しています。その前後から四肢体幹が全体的に筋力低下されているので、維持出来る様に

支援をしていきたいと思っています。

「いつもありがとう。楽しかった。」と毎回言っ
て下さるお気持ちを大事にし、楽しんで活動出来るよう介入をし見守っていきます。

＊意見交換＊

柳田ケアマネ・今回のKさんの様に筋力の低下には、体幹を鍛える運動が有効で例えばボールを使用した運動でボールを持って体をひねったり、投げるなどがあります。

〇〇さん・母親には妄想がでる傾向があり、その都度対応しているが言葉が難しいのですが。

院 長・集団に居る事で安心するので、地域の交流会に参加しておしゃべりしたりする事も一つの方法です。また、できる事をやってもらう。褒める事により自分の存在、役に立っていると思われれる事でも安心します。

〇〇さん・84歳の祖母が入院した時に恥ずかしがって排泄ができない時に看護師さんからの一言「これが私の仕事です。」で素直に応じる様子を見

て感激しました。皆さんの仕事も大変な仕事であると思えました。
書記・グループホーム
旭町 川村

カラフルな「リースのひな飾り」



認知症の方の行動について

『とある日の出来事』

御家族と病院に行った帰りの事です。「ちよっと待って」と声を掛け、用事を済ませると見当たりません。ほんの少し目を離れた隙に動いてしまったのです。

グループホームに連絡が入ったのは午後の3時頃

でした。川崎駅の地下街で見失ったとのことで、すぐに職員は動きました。外にいるかもしれないと考え、「デイケア、デイ

サービス」の送迎時に探索して欲しい」と依頼しました。全ての通りを探してみても見つかりません。本人は動き回っていますし、見当もつきません。以前にもお1人で出掛けられてしまった時の事を考え、大通りを歩くかもしれないというのは考えつきませんが幸区方面、鶴見方面、多摩川を渡り東京方面・・・どこを探しても見つかりません。

も分かりません。ご家族にも総出で探し回り、警察にも捜索願を出し、色々な方と力を合わせ捜索しますが、そんなすぐには見つかりません。

後は警察に任せるしかない・・・と諦め、職員は勤務を終え帰りました。が、帰り道にでも見つからないかなあと辺りを見渡しながら移動していました。2時間以上経過した時のこと、用事を済ま

せる為、職員は外を移動していると偶然にも発見しました。反対側の歩道だった為、急いで自転車とその場に停め見失わないう様にしていました。元気がいつものペースで歩いています。(よかった怪我していない)と一安心し、「〇〇さん」と声を掛け、手を握りました。「うん」と答え、笑ってくれました。「家に帰ろう」と伝え、タクシに乗る為、移動しようとすると足がガクガクしてしまいました。2時間以上も歩いていたと思われ、息が切れていて当然です。息も上がっていました。ご家族に報告し、ホームにも連絡を入れ帰宅しました。水分を摂ってもらい、体調確認、ご家族への報告をしてその日のうちに無事帰宅できました。御本人の気持ちはどうだったのでしょうか？考えてみましよう。通院で疲れていて早く帰りたい、いつもと違い開放感があり、もう少し散歩したかった、トイレにいきたかった等。歩いている時の不安は強かったと思います。

どこに行ったらいいのかわからないのか。誰に相談したらいいのかわからないのか。周りの方は知らない人ばかりです、助けを求めることも出来ない。知っている顔、声を聞いた時はホッとしたと思います。今回の件で色々調べ、とある資料から一部抜粋です。

認知症高齢者の徘徊・行方不明・死亡に関する研究 桜美林大学老年学総合研究所 大学院教授 鈴木隆雄

平成25年度日本全体で約1万人の認知症の高齢者が行方不明となっており、その中で約360名の方が亡くなられている現実から早期の対策が極めて重要である。

実態調査での比率について、やや男性が多い。年齢は75歳から84歳までが半数以上。行方不明になった場所の比率について、自宅が半分以上、移動中(通院、散歩等)が3割、その他2割。移動手段について、徒歩が約8割、自転車、その他が1割ずつ。行方不明になってからの対応について、警察に相談が大半

を占め、市町村やケアマネージャーに連絡が2割ありました。発見者の比率について、約4割が一般の方、3割が警察、その他(家族、地域のボランティア、施設職員)が1割ずつ。発見場所について、自宅周辺から普段行動する範囲内が約4割、市町村内が2割、県内が3割、県外、不明が1割。発見までにかかった時間、9時間未満が約半分を占めている、それ以上経過すると発見率は徐々に下がっていく、また年齢が若いほど発見に時間がかかっている。徘徊の対策については早期通報、早期捜索が重要で、通報が早ければ早いほど発見までの時間が短い。住所、氏名が分かるようにしておくこと衣類に縫い付けや靴にシールを貼る。GPSの活用(貸付制度も含め)をする。

徘徊事例の分析から分かったこと。徘徊の多くは午後から夕方にかけて最も多い。70歳代から80歳代にかけて発生、どのタイプの認知症でも発生する、

移動能力が維持されている方が多い。徘徊は繰り返す。という事が書かれておりました。私も認知症についてもつと勉強し、これからも安心、安全に暮らせるよう支援していきたいと思っています。

板井

「ひな飾り作品作り」

2月の後半に、リースのひな飾りを作りました。今でこそ豪華なひな人形飾りがありますが、もともとは紙人形を作った海や川に流し、身の汚れをおはらいしたり、四方を縫い縮めた布の中に布や紙をつめてふくらませ、

完成したひな飾り



頭と目鼻を付けた程度のお粗末な手作り人形をお守りとして幼児の枕元に置いたそうです。

リースというところからリースを思い浮かべますが、ひな祭り仕様にアレンジして作りました。リース部分は色とりどりの折り紙で作りました。お内裏様やお雛様や飾りをカットしてリースに貼り付けて作り上げました。リースを作り終えて皆さんにひな祭りの思い出を聞いてみました。

「うちは七段飾りだったよ」や「うちは五段だった」、かと思えば「あの頃は生活するのに精一杯だったな」なんてことを聞かせてくださる方もいらつしやいました。

食べ物のお話にもなり、「ちらしずしを食べた」とか「お赤飯を作ったよ」とか三色ひしもちを作った話や、「ひなあられも食べたよね」などみなさん話してくださいました。誰かが「甘酒のみたね」と言い、みんなも飲みたいねってなったら、「甘酒飲んだらみんな酔っ払いになっちゃ

う」と誰かが叫び、みんなで大笑いしました。みなさんとても器用に作品を作り上げ、皆さんの思い出話もきけて良い時間を過ごすことができました。

デイサービス 高橋美幸

新人紹介①

柳田デイサービスで働かせて頂いております、高橋美幸です。こちらに来たのは昨年の9月で、半年が経ちました。介護の仕事自体まだ3年と未熟者です。

以前の仕事はトリマーと言って、犬の床屋さんでした。体調を壊した事によりトリマーを続けられなくなり転職を考えました。昔大阪にいる叔母があるケアマネージャーさんにとてもお世話になった事がありました。その方に感銘を受けた事を今でもよく覚えており、私も誰かの為になるような仕事が出来たらいいなと思います。初めは私に勤まるかと不安でした。実際にお仕事させ

ていたで、日々学ぶ事の連続で大変ですが、周りの方々に助けられ楽しくお仕事させて頂いております。

そして幼い頃、演歌好きの父の影響で良く歌を歌ってましたが、それが今になって役に立つとは思っていませんでした。これからも笑顔を忘れず、相手の立場になって物事を考えられるような介護士を目指して努力して参りますので、宜しくお願い致します。

柳田デイサービス

高橋 美幸

新人紹介②

柳田デイサービスで10月から働かせて頂いております、周藤直道と申します。

介護のお仕事は今年の4月で4年目になります。最初の施設では知的障害の方の就活支援を主に担当していました。普段、何気なく使っているポールペンや生活に欠かせないパソコンや洗濯機に使

う小さな部品のコアのはめ込み作業を教えたり、時々行うレクレーションをしたり気分転換して、一緒に今後の事を考えたりするのが主な事でした。その後、有料老人ホームに転職し、オムツの付け方や食事介助を学びましたが、利用者様を身近に感じ、皆さんと楽しく過ごせる施設で働きたいと考え、柳田デイサービスに働かせて頂いています。まだまだ経験が浅い所があり、未熟者ですが少しずつでも利用者様の笑顔を見れるように、また「居てくれると楽しい」などと思っていただけ様な職員を目指して頑張っていきたいと思っております。

柳田デイサービス

周藤 直道

桃の節句

3月3日は桃の節句(お雛様)です。女の子が生まれると、子供の成長を願いつつお雛様を購入された御家庭もあるのではないのでしょうか？5段7段飾りとは大きな物であれば、おだいり様とお雛様の1



仲間と混ぜています

段飾り、人形ではなく動物など色々なお雛様があるようです。今年の3月3日は日曜日でしたので、デイケアでは3日(日)を挟む3月1日、2日は菱餅積みゲーム・4日、5日は桜餅のおやつ作りと節句にちなんだプログラムを実施しました。

サラサラした液状になります。そこへ砂糖、小麦粉をふるい入れる頃には2、3人の方々が「手が疲れた」「替わるよ」と交代で協力し合い泡立て器でだまにならないように混ぜてくれました。次に桜餅には欠かせない生地の色づけです。食紅を使い少しづつ混ぜていきながら色合いをテーブルの皆さんで確認してゆきました。1滴入れると『まだまだ(色)足りないよ』もう1滴入れると『少し付いたけどまだだね』更に入れるとほんのりピンク色。少々意見も分かれる頃ですが『あともう少し』の意見に食紅をポトリ。混ぜた生地を見た皆さんは「納得の顔」でした。さあ生地を焼いてゆきます。あんこが巻けるように生地を流し桜の花をのせます。片面焼きだったので「ちゃんと焼けてる？」と気にされる利用者さんもいらっしゃいました。乾いていけば大丈夫なのです。あんなこを1人づつ配り、生地に収まるようにクルクルとまきました。皆さ

桜餅完成しました！



んからは「綺麗だね」「できたー」「美味しそう」と喜びの声が上がり、少しフライング気味に桜餅をほおばる姿も見られました。その後のお茶のひとときは、話がやまな素敵な時間となり好評に終わりました。さあ、次は何を作りましょうか・・・

柳田デイケア 三島

編集担当交代のお知らせ
本号(206号)より
新聞編集担当が「柳田デイケア 杉山」となります。不手際があるかと思いますが、何卒ご理解とご協力を頂きますようお願い申し上げます。